略歴書

目黒　公郎（めぐろ　きみろう）

東京大学生産技術研究所教授
都市基盤安全工学国際研究センター長、工学博士

【専攻分野】都市震災軽減工学、都市防災戦略

【本会活動】
理事（学術国際担当）：2005 年 6 月 1 日～2007 年 5 月 31 日
論文集編集委員会委員：2002 年 6 月 1 日～2005 年 5 月 31 日
国際委員会（13WCEE 担当）：2004 年 6 月 1 日～2006 年 5 月 31 日
国際委員会委員長：2005 年 6 月 1 日～2007 年 5 月 31 日
地震災害対応委員会委員：2005 年 6 月 1 日～2007 年 5 月 31 日
大会委員会委員：2007 年 6 月 1 日～2008 年 5 月 31 日
研究統括委員会委員：2002 年 6 月 1 日～2003 年 5 月 31 日，2005 年 6 月 1 日～2007 年 5 月 31 日
学術調査委員会委員：2002 年 6 月 1 日～2003 年 5 月 31 日、他

【略歴】
1991 年　東京大学大学院　工学系研究科　博士課程修了
1991 年　東京大学助手（生産技術研究所）
1995 年　東京大学助教授（生産技術研究所）
2004 年　東京大学教授（生産技術研究所）
2007 年～現在　東京大学生産技術研究所　都市基盤安全工学国際研究センター長
2008 年～現在　放送大学客員教授（兼任）
2010 年～現在　東京大学大学院教授（兼務、情報学環総合防災情報研究センター）

【受賞】
土木学会　論文奨励賞（1992）、日刊工業新聞　技術・科学文化図書大賞（1993）
土木学会　出版文化賞（1994）、地域安全学会　論文賞（2002）
地盤工学会　「土と基礎」年間優秀賞（2006）、土木学会　国際活動奨励賞（2007）
東京大学総長賞　業務改善（2007）、文部科学大臣表彰　科学技術賞（2010）、他

【委員会活動】
・日本学術会議　連携会員（2012 年 12 月～）
・日本自然災害学会理事（1998 年～）　兼「学会賞審査委員会」委員（2008 年 7 月～）
・同学会　東日本大震災特別委員会　委員　(2011 年～)
・地域安全学会理事 (2001 年～)
・日本予防医学リスクマネジメント学会　副理事長 (2011 年～)
・国際予防医学リスクマネジメント学会　理事 (2011 年～)
・日本活断層学会理事 (2012 年～)
・土木学会　地震工学委員会　幹事　(2008 年 4 月～)
・同学会 日本土木史編集特別委員会 委員、「地震工学」部門 委員長(2008 年 4 月～)
・国際地震工学会 (IAEE) 世界地震安全推進機構 (WSSI)理事 (1995 年～)
・内閣府　社会還元加速プロジェクト・タスクフォース　専門委員 (2008 年～2012 年)
・世界銀行　防災グローバル・ファシリティー有識者委員会　委員 (2007 年～2010 年)
・財務省　地震保険制度に関するプロジェクトチーム　委員 (2011 年～)
・総務省　Ｇ空間×ＩＣＴ推進会議　委員 (2013 年)

・国土交通省　大規模地震・津波対策アドバイザリー会議　委員 (2013 年 7 月～)
・国土交通省・農林水産省 水門・陸閘等の効果的な管理運用検討委員会　委員長 (2012 年 12 月～ 2013 年 3 月) 、他、多数

【著書および主要論文(代表的なもの 10 編程度)】

- 平田直・佐竹健治・目黒公郎 : 巨大地震・巨大津波 ―東日本大震災の検証― 、朝倉書店、196p、2011.
- 目黒公郎：間違いだらけの地震対策，194p，旬報社， 2007.
- 近藤伸也・目黒公郎 : 防災関連学会における研究分野の動向分析に関する基礎的研究，地域安全学会論文集，No.19，2013
- Masayuki Kohiyama, Anne S. Kiremidjian, Kimiro Meguro, Miho Ohara: Incentives and Disincentives Analysis for Improving Policy for Seismic Risk Management of Homeowners in Japan, Natural Hazards Review, ASCE, Vol.9, No.4, P.170-178,2008.
- 竹内政彦・越村俊一・目黒公郎 : 多目的ブイを用いたネットワーク型津波警報システムの人的被害軽減効果に関する研究、海岸工学論文集、第 55 巻、5p、2008.
- 目黒公郎：発展途上国向けの耐震補強法の開発，地震ジャーナル，42, pp.38-46, 2006.4.
- 吉村美保・目黒公郎 : 既存不適格建物の耐震補強推進策に関する日米比較研究，日本建築学会計画系論文集，第 595 号，pp229-236, 2005.
- Seiya Uyeda and Kimiro Meguro：Earthquake Prediction, Seismic Hazard And Vulnerability, Proceedings of International Union of Geophysics and Geodesy Assembly 2003 (2003 IUGG),10pages，2004.
- 目黒 公郎，地震防災への実践的アプローチ，科学， Vol.73， No.９，pp.952-960，2003.
- Kimiro MEGURO and Hatem Tagel-Din, Applied Element Simulation of RC Structure under Cyclic Loading, Journal of Structural Engineering, ASCE, Vol. 127, No. 11,pp.1295-1305, 2001.

【所信】

この度、役員候補者推薦委員会から会長候補者に推薦されました。歴代の会長並びに会長候補者の方々と比べて甚だ未熟ではありますが、「頂いた期待には最大限の誠意を尽くす」という信念に従い推薦をお受けしました。皆様のご協力をいただき、最善を尽くす所存です。

JAEE の設立前、30 代であった私はその意味や課題を調べ同世代の仲間と議論を重ね、自分の考えを書きとめていました。それを設立２年後に、地震工学ニュースレターVol.3 No.2 に「JAEE の活動が順調に展開されるように（http://www.jaee.gr.jp/stack/magazine/Vol3No2/DrMeguro3-2.pdf）」というタイトルで、藤野陽三東大教授による同ニュースレターの「学会の将来構想を」への若手会員からの声として投稿しました。「JAEE の設立趣旨と活動の基本哲学」「会員への魅力的なサービス」「財政を確実にしてこそ」「活動を支える人的資源」などの章立てで、JAEE の課題とその解決法に関する考えを述べています。10 年の時が経ち、JAEE の活動も変化してきていますが、指摘の多くは依然として重要だと感じています。ぜひご一読いただきたいと思います。

現在の我が国の財政状況や少子高齢人口減少を考えると、今後の巨大地震対策は「貧乏になっていく中での総力戦」です。従来型の地震工学の研究のみでは対処できません。理工学と人文社会学の融合に基づくハードとソフトの組み合わせ、さらに産官学に金融とマスコミを合わせた総合的な災害マネジメントとその制度化が求められる中で、我が国の地震防災に関わる学術組織の中心として、JAEE への期待と役割は非常に大きいのです。首都直下地震の危険性が指摘される中での 2020 年の東京オリンピックや 17WCEE の招致問題、学会としての強靭な財政基盤の確立など、迅速に対処すべき課題も山積みです。歴代会長の就任時の平均年齢は 64 歳を超えていますが、今回はより長期的に学会活動に関わり、主体的に課題に取り組むことが可能な若い会長を選び、上記のような課題解決を目指すべきではないでしょうか。私が皆様からのご支持を得た場合には、先輩諸氏のご意見を伺うと共に若い会員のエネルギーを集約させて課題解決に取り組みます。

私の詳しい活動は「http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/活動歴.pdf」をご覧ください。よろしくお願いいたします。